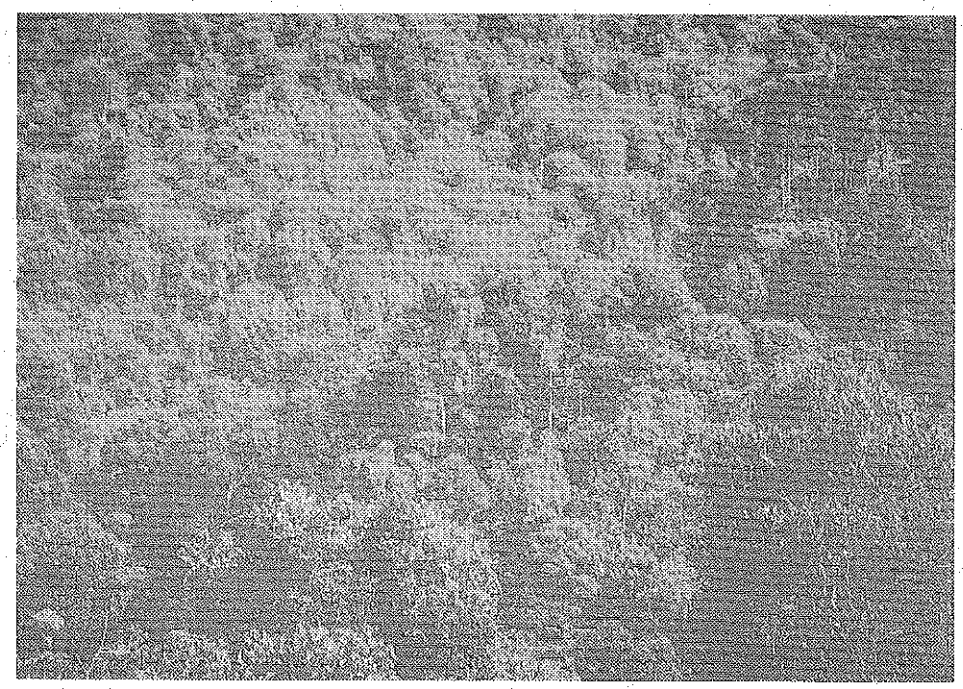
Save The Tropical Forests

ウータン

Hutan 91

森の通信 2009.4.14



サラワクの原生林▲

CONTENTS

- People⑩ …… 3P
- 2009年 ウータン方針…… 4P
- インドネシアからの違法材を追う …… 5P
- 現地NGOの様々なプロジェクト …… 8P
- 世界の森林ニュース …… 11P

Save The Tropical Forests
ウータン Hutan
森の通信
2009.4.14
91

前号で記載のサラワク州の12のダム計画。2020年までに建設という。ダム計画は環境アセスメント、詳細な資金計画、詳細の電力需要予想なし。先住民の生活や生態系の保全についても全く調べない杜撰な代物。しかも12のダムのうち、Totoh(トトゥ)ダムは世界遺産に登録のムル国立公園の一部の村を沈める。当初2007年中国で話され、華僑が計画した。

2030年までの予定投資額3340億リンギットのうち、サラワク州政府の投資は20%、残りは民間からの見込みという。経済危機の中、タイブ・サラワク州首相は2008年12月3日、「投資は問題なく行われるだろう」という。

南部のビダユ人や北部の Limbang(リンバン)地区のケラビット人、バラム川地区のプナン人等が、このダム計画に反対している。バクンダムを建設してもまだ電力が余っており、12のダム計画の費用は誰が払うのか。サバイバル・インターナショナルは「無謀だ。ユネスコの世界遺産となるムル国立公園をも水没させる計画に、反対の声を世界から起こさねばならない」と反対の呼びかけをはじめている。ケラビット人アンディ・ムタン氏は「このダム計画はサラワクの森林、そして生活を、景観を、全て壊すものだ」とメールしている。

誰のためのダム計画か? 建設利権のためか、それともサラワクの森と生活を守り、ボルネオを守るために世界的な停止を求めるか―である。無意味で、生態系を大破壊し、先住民たちの生活を脅かす幾つものダムは全く不要。あり余るサラワクの電力需給に無用な12箇所のダムはいらない!!

今こそ、これらのダム計画を止めさせるべきだ。マレーシア経済が危機的状況で経済効果もなく、売電なしのダム計画への融資は要らない! サラワク州にもある世界最大の金融グループ HSBC ホールディングも違法・持続的でない木材企業等への融資を取消す方針でもある。

ダム計画の停止を勧めよう! 生態系の保全と先住民たちの暮らしを守るために。

【ウータン活動報告】

2008・12・5－17 中村、中・西カリマンタンへ違法材・アブラヤシ開発の調査

12・16 ウータン、2009年活動方針案の検討

2009・1・13 ウータン、2009年活動方針案の検討

1・20 通信『ウータン90号』発送

1・24－30 西岡、東カリマンタン・ヌヌカン等へ違法材調査

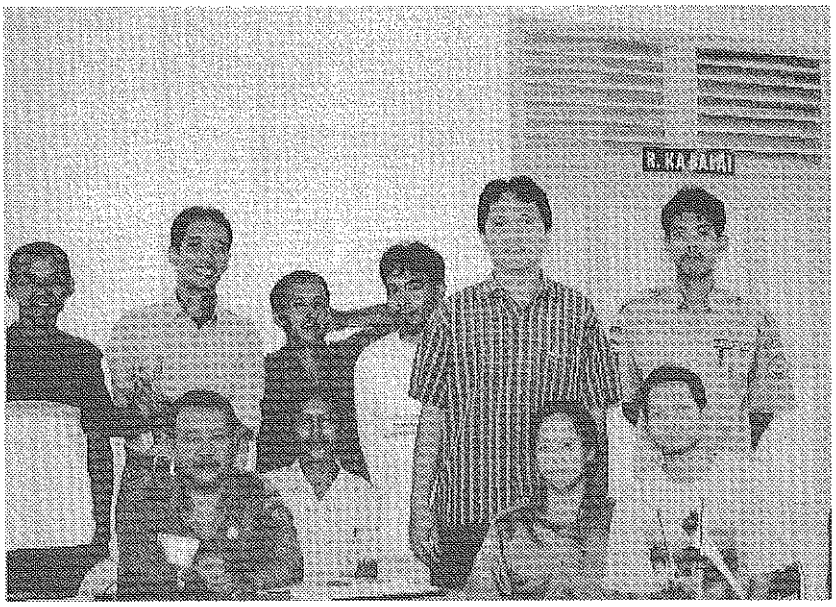
2・7 ウータン総会＊大阪市立中央青年センター

2・11－17 石崎、中カリマンタン・タンジュンプティンへ調査

2・27－3・1 森林保全活動の戦略会議＊西岡が講師で「ラミン停止キャンペーン事例」話す、また招聘の Telapak アルビ氏等とウリン材や東京湾の木材調査

People⑩ save! the World's Forests

インドネシア・西カリマンタンのケタパン森林警察と
違法伐採を世界に知らせたTelapak・ヤヤット氏(右下) [写真 by Nishioka]



2005年インドネシア・西カリマンタンのグヌン・パルン国立公園の違法伐採調査の後、ケタパン森林警察を再訪した写真。KAIL(Kalimantan Anti-Illegal Logging)のダルマワン代表に情報を得て同公園に行く。ラミン、ウリン、ジュルトンなどの木材を公園内で違法伐採していた。当時、地方はまだ木材企業と癒着する警察、軍のメンバーがいた。グヌン・パルン国立公園も伐採地に隣接のサリブミ・クスマ社(アラス・クスマ・グループ)と警察官の一部が密着する事実を目撃した。調査同行の森林警官はまじめだったが。

「2005年ユドヨノ大統領も政府高官も違法伐採撲滅へ向かいつつある今、ケタパンで警官が木材企業と癒着したことが判明したら、大問題になる」と西岡とTelapakヤヤット氏とで、当時のケタパン森林警察署長に申入れたところ。今だから公開できる写真。2007年秋、違法伐採容疑でアラス・クスマグループの責任者が逮捕され、西カリマンタンの違法伐採が激減した。2008年3月ケタパンから密輸船も拿捕、大勢が木材密輸により逮捕！　今はこれらがあり西カリマンタンからサラワク州へ密輸が激減した。

ウータン2009年の方針

事務局長・西岡良夫

1.「違法伐採木不使用へ自治体・企業キャンペーン」・・・違法材等の海外調査中心や国内調査

1)違法材排除】へ自治体等の調査やキャンペーン」を継続・・・「やれば出来る！違法材停止」の継続

A)自治体状況－07 年都道府県へ質問／27 道府県で【違法材停止意見書】は 130 自治体で採択－広島岡山、兵庫、大阪、奈良、和歌山、愛知、新潟、青森等の対応が遅い自治体と話合いを 7－10 月。

B)公共材(製材等)調査実施・・ウリン調査等で、　C)輸入ルート・港の割り出し・・継続

2)【希少種ウリン材停止キャンペーン】－07 年開始 50 社停止・・・(キャンペーン一時停止か？)

A)問題・・・＊日本で公共事業多使用、輸入禁止と知らぬ!(08 年 12 月一部輸出解禁・・09 年 2 月末判明)

①激減種　②オランウータンの巣に　③森林火災に強い　B)現状＊公共事業 100 箇所、400 社使用

C)企業　＊主停止)三井物産、電通、鹿島建設、＊マレーシア産へ)住友林業、網中木材、小山商店

＊主な未回答)双日建材、中昇木材、木村物産、備後桐材、サンワ、林田順平商店、リーベ等

D)停止検討・・・①自治体へ働きかけも　②杉材に転換を検討

3)違法伐採問題、「停止宣言自治体・優良企業」、消費者への広報

4)【原産地証明・樹種表示】の明示へ取組み・・・家具、製材品等の環境に優しい物の明示

2、違法材海外調査・停止依頼・国際キャンペーン

1)【違法材停止国際キャンペーン】・・A)海外 NGO と連携、ウリン等違法材の海外企業等へ停止依頼

2) ボルネオ島の密輸が激減・・・密輸の 8－9 割が停止！－A)西カリマンタン―サラワク州, B)東カリマンタン―サバ州・国境 Tawau 市で密輸の KalabakanPlywood が 09 年当初操業停止、

＊09 年 1 月、インドネシア NGO と調査の新情報・・・インドネシア政府の働きかけが大きい。

3)政府等や国際機関等へ働きかけ継続・・ITTO 等へ働きかけが浸透

4) Contact NGO－Telapak, Forest Watch, KAIL、Titian、Sawit Watch, WALHI, WWF E Kalimantan 等

3、「反違法伐採・温暖化防止へ原生種植林の調査」

1)違法伐採停止一オランウータン戻る、他地で違法伐採/泥炭湿地林保護一原生種植林、森林火災調査

2)目的・・タンジュン・プテイン国立公園で A)違法伐採問題を日本で宣伝, B)インドネシア等 NGOsと広く交流, C)原生種植林を拡大、D)違法材仕事より再植林が優れる事を住民に, E)場所は卓越、F)交通便がネック

3) Contact NGO－Yayorin, Friends of National Park Foundation, Orangutan Conservation Service、

4、「フェアウッド材普及を」・・国産材利用と違法伐採対策・原生林保護へ行動検討一ウータン PR 中心

1)各都道府県・森林担当者と話合い等・・・7－10 月　2)認証材チエック(都道府県担当者等に呼びかけ)

5、その他の各種取組み

1) 地球環境基金に海外調査等で応募、　2) 財政の強化―170 万円目標、

3) HP の改変、再開(内容が古い、ラミン改変)　4) 組織内一部担当変更(ツアー等)

5) 報告書(2 月『守れ!ボルネオの熱帯林 STOP!違法材』等)、他作成、 6) サラワク州の 12 ダム計画調査

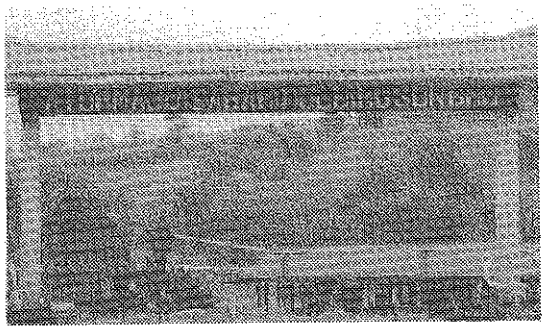
7) 大学等へ違法伐採PR、　8) 2010 年名古屋の生物多様性条約締約国会議(CBD)の問題調査、

9) 違法材関連・国内合法材関連資料収集、 10) アブラヤシ、温暖化防止、泥炭湿地沈下の資料集め

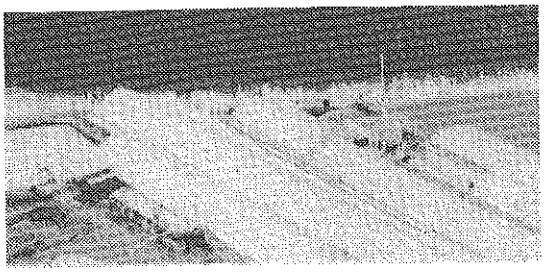
＊サバ州、サラワク州へ密輸が激減したことは CBD 条約名古屋へ PR できる。今年は国内をも重点的に

インドネシアからの違法材を追う(4)—8割強の密輸材停止!!

西岡良夫



上)Kalabakan アトゥマジュ・サバホールディング
下)タワウ郊外カラバカン・プレイウッド 09 年停止



連載を始めたが数回の報告で終わるだろう。

結論から言う。密輸が劇的に減少し、現在8割強の密輸が出来なくなったからだ。2008年と2009年 1 月のインドネシアとサバ州国境での調査と聞取りで判明した。

1回目で書いたようにサバ州国境の都市タワウ市と国境沿いのカラバカンに東カリマンタンから2005年まで年100－200万㎥の丸太が運ばれていた。2001 年からインドネシア政府は、丸太の輸出を禁止し明らかに違法なのだ。だが2007年頃から西カリマンタンと同様に、密輸が減りだした。以前は木材マフィアとつるんだ軍、警察が、インドネシア政府の指導の下で密輸を摘発し始めたから。既に木材が減ったこともあるが、、。

2008年4月でもタワウ市内の10社のうち大手5社がカリマンタンの木材を使用していたが、使用できない企業も現われ、小企業は操業停止、時間短縮の操業であった。インドネシアの警察、軍の変化と摘発強化で2009年1月、密輸が大半出来なくなった。しかし山岳地を経由する密輸は人目に触れないだろうから、雨季を除く4－9月に行われる。ただ輸送経路が長く、時間、経費がかかるから大量に密輸出来ない。そのため8-9割の密輸が出来なくなったのだ。

サバ州国境と東カリマンタン報告である。

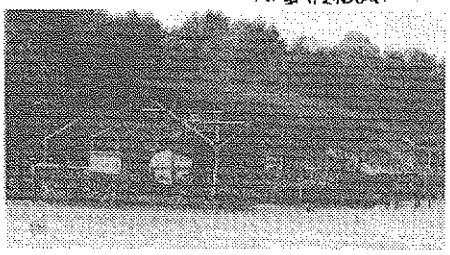
2009年1月24日ジャカルタ空港で Yayasan Titian のユユン氏と会い、調査の行動予定を午前2時過ぎまで話す。

25日早朝フライトで一路タラカンへ。そこから船で目的地のヌヌカン島に向かう。雨季、海上で雨が珍しく、しとしとと降り出した。

若いユユン氏は混雑の船でうとうとし始めた。今朝まで2人とも3時間しか寝ていないためだ。

1時間半ほどで雨があがり、甲板に乗れば遠くに Sebatik(セバテック)島がうっすらと見え出す。この島の 1／3 がマレーシア領、2／3 がインドネシア領。随分近づきヌヌカン島がみえる。セバテック島を良く見れば禿山になり、保護林も既に伐採されてしまったようだ。対岸の東カリマンタンは平坦な大地が続き、以前森林であった所は大半が放置されている。この辺りの海域も含め石油資源があるといわれ、紛争中であったのに、密輸が堂々とされていた。

Sabah タワウ、東カリマンタンのヌヌカンの図



ヌヌカン・違法材をタワウへ運ぶ製材所閉鎖 07 年

ヌヌカン島に着き、先ずタンジュン・バツに行く。資料でも製材所があり、そこからサバ州タワウへ違法貿易しているとある。タクシーの運転手も製材所を知っていた。行ってみると製材所はボロボロだった。

「製材所は2年前の2007年に閉鎖した。スブク(Sebuku)で伐採された木材が運ばれていたが、来なくなった。半年ほど来なくなり、ストックもないし、経営者は〔廃止だ〕と言って閉鎖。今は宝石採掘の仕事さ」と村の労働者。

1月26日、問題のスブク地区へスピードボートをチャーターして向かう。スブクは他の村人やヌヌカンの人達から Yamaker 村と呼ばれている所だ。Yamaker 木材は軍と以前絡み、密輸がしていた所で、スブク地区にあった。

海は静かだ。海を越えて1時間半余りで、スブク川に入る。川幅が50m以上で、岸辺の大半がマングローブ林。その中の木は潅木が多く、5－10mの高さ。ところどころの木陰で、テングザルが食後かよく寝ている。

河口から2時間で最初の木材集積地が見える。大半の木が細い。使えるかとユユンに聞く。

「これは Adindo(アディンドー)社のものだ」とユユン。Adindo を後で調べたら、Sinar Mas(シナルマス)Group の傘下で、パルプ、チップや紙を製造すると。道理で細い木だった。

スブクの村に着く。コーヒー・ブレークだ。

40－50軒の家が見える。船着場へ行く。いつもの通り、ユユンは村人に話しかける。警察も混じって雑談する。

「村に良い道が出来ていますね」とユユン。

40歳過ぎの男が「そうさ、2005 年末にサマリンダまで行ける道が出来た。途中から分かれて、サバ州タワウまでも行ける」と答える。

何のこともない。このスブク村で違法伐採していたものを、今はサマリンダの製材所まで運べるのだ。

コーヒー・ブレークを終え、スピードボートを奥へと進める。Inhutani1(インフタニ木材)の集積場にはまだ大きな丸太が積まれていた。

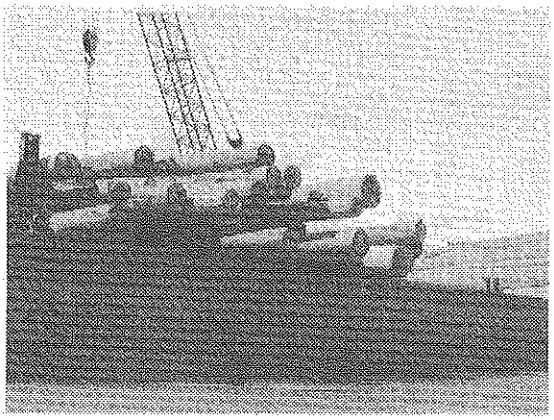
「川の上流の奥へ行けないか」と私は聞く。

ボートの運転手は「この奥に伐採地はない」とユユン氏に告げる。仕方ない、引返しだ。村から2人を乗せてくれというので、同船させた。

スブク川河口ではワニが昼寝をしている。このカリマンタンで中国人のワニの販売がされていないように、寝そべっている。

海上に出た。ユユン氏は携帯電話で何か喋っている。小声で彼は話しかけてきた。

Inhutani1(インフタニ木材)の集積場



「やられた。あのスブク村の奥に伐採地があったのだ。Yamaker 木材からの引き継いだところに共有林のようなものがあると。今 WWF カリマンタンの友人と連絡を取ったら、あの村の奥に木材伐採地があることらしい。彼も詳しく知らなかったが、調べ直して判明したとの連絡だ」とユユン氏。「図られたなぁ」と私が小声で言う。

村から乗った 2 名は私たちを見張るものだったのか、、。もうスピードボートはヌヌカン近くだ。沖合いにマレーシアの違法操業船が見える。「魚を取っている」と 1 名が告げる。

ヌヌカン島に戻り、昨日に続いて聞込みをする。船着場のおばさんは、

「私の夫も以前サバ州のタワウの木材工場で働いていたが、東カリマンタンからの木材運搬量が減って、2 年前にやめた。マレーシアに行けば、ここより賃金が良いから多くの人が働きに行っているよ。

昔から密輸のようなものがあったが、最近は警察や海軍が厳しく見張りをして丸太等も運べない。下手して逮捕されると、確か1人100ドル払わねばならない。大金ですごく減ったよ。」

ユユン氏が聞く。「最近て、いつ頃？」

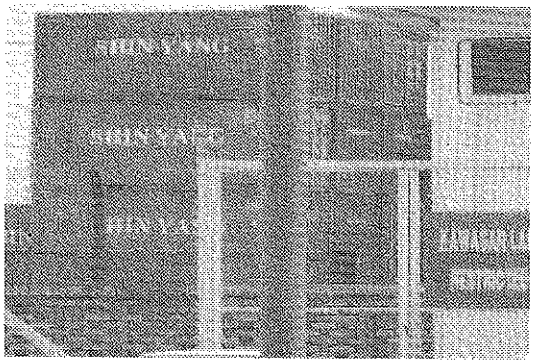
「ここ1，2年のことだよ。サバ州タワウの木材工場も次々と操業停止しているらしいよ。この正月にもカラバカン・プレイウッドも操業停止と聞いたが、、、。」

2008年4月、タワウ市内の木材工場を調査したら、大手企業を除き10社のうち5社がカリマンタンからの丸太や製材が入らず、操業停止。今度は年末、カリマンタンに最も近く大量に丸太を入れていたカラバカン・プレイウッド社が、操業停止とは驚きだった。

カラバカン・プレイウッドは日本の大手のＳ林業やイクマジュ(日本資本の池内木材)、華僑資本のフンニャプ製材所等に販売していた。またサラワク州最大の木材企業シンヤン社も近年タワウ市に資本投下して、イクマジュから東カリマンタンの木材を手に入れていた。これも停止！

1月27日、ヌヌカンからタラカン島へ向かう。調査はインタラカウッド(Pt.Intracawood)社。アポなしの同社との話合いを含め、この調査でカラバカン・プレイウッドも操業停止の判明で、密輸が8割以上停止と判明した。やったァ!!

(続く) ―＊次号はタラカン島で―



サバ州タワウ税関内シンヤン木材コンテナ(08年)

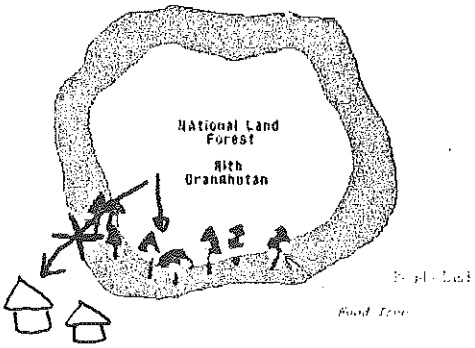
現地NGOの様々なプロジェクト　～タンジュンプティン国立公園より～①

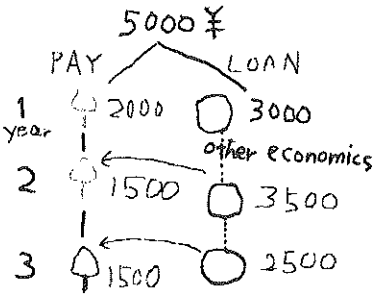
2009年　石崎　雄一郎

1、アルビの二つの計画

ジャカルタへ着いた翌日の朝にアルビと面会した。アルビはジャカルタに本部を置くNGO、OCSP(オランウータン・コンサベーション・サービス・プログラム) のメンバー。月末に東京で行われる戦略会議への招待状を渡したほか、聞き取り調査としていくつかの質問に答えてくれた。そのほかにも彼の考えている面白いアイデアを紹介してくれた。

アダプトツリープロジェクト(Adopt Tree Project アダプトツリープロジェクト)





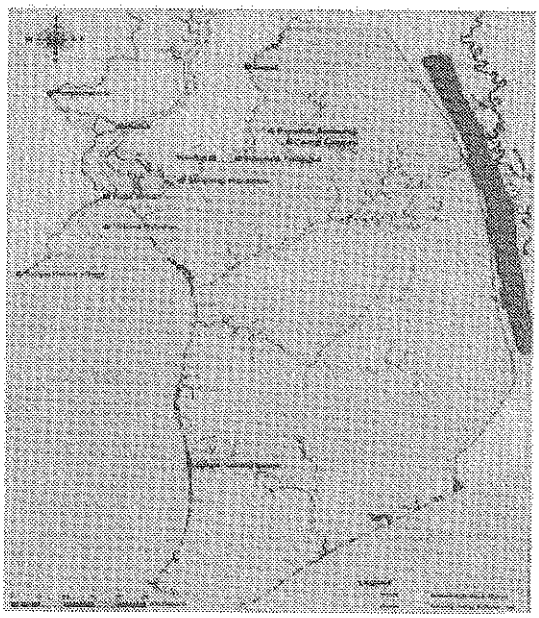
目的:　①オランウータンに食料を与える　②人々が収入を得ることができる
③人とオランウータンとのいざかいをなくす、トラなどの外敵から守る
④ その地域の環境を守る(水など)

オランウータンの住んでいる森を餌のなる木で囲むことにより、オランウータンの餌の確保や地域住人との摩擦解消などを目指すプログラム。オランウータンが住んでいる森の木が伐採されたことにより、オランウータンは森の外へ食べ物をとりに来るなどの行動を起こし、地域住人や他の動物との摩擦が生まれている。オランウータンの食糧が得られる木を植えれば再び彼らの住む場所は確保され、食べ物も得られる。なおかつオランウータンの安全は守られ、森が再生することにより、その土地の環境も良くなる。フードツリーを植える事業を住人に仕事の機会として与えることによって地域の経済効果も生む。

はじめは植林のための費用＋住人へ生活費等をローンとして支払う。年がたち木が成長すれば植林に対する費用は減り、住人はプロジェクトによる収入からローン返済＋植林費用をあてがう。収入総額は年々増えていき住人も豊かになる。

まだアルビの頭の中にあるプランだが、話している時のアルビの目は輝いていた。

WEプロジェクト（ジェルトン＆ゴムの木プロジェクト） We project (Jelutung & rubber tree project)

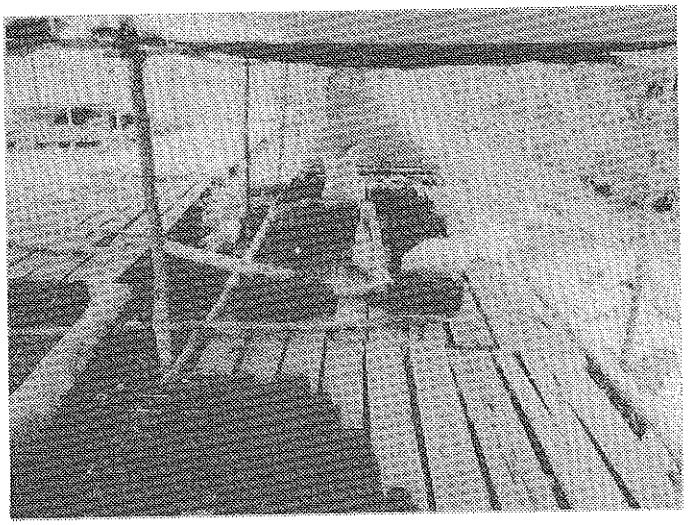


どんどん拡大を続けるパームオイルプランテーションが国立公園内に侵入してくるのを防ぐためにスルヤン川沿いのラインの上に木によるボーダーを作りガードする。ジェルトン（Jelutung）やゴムの木（Rubber tree）のような成長の早く植えるのが簡単な木を5か所の村にまたがり植える。土地をすべて買わなくても川沿いに障壁のように木を植えるだけで侵入を防ぐことができるであろうとのこと。現地NGOのWEが主導のプロジェクト。ウータンではラミン植林への思いがあるが、ラミンは成長が遅く、育てるのも難しい。アルビの思惑では成長の遅いラミンにプラスしてジェルトン、ゴムの木

も一つのプロジェクトとしてまとめて行ってほしいと言っていた。スピードと手軽さが重要なプロジェクトだ。

2. 村人が主役！のプロジェクト

タンジュンハラパン・コミュニティの苗木プロジェクト
Community Forest Nursery Tanjung Harapan Village Project



フレンド・オブ・ナショナルパーク・ファンデーション(FNPF)がいま一番力の入れているプロジェクト。それは村人を巻き込み、彼らが主役になることを目的としている。NGOの活動などでアグロフォレストリー(農林業)はボルネオに広がっている反面、苗木は足りなくなっているという。FNPFのバスキはこの村全体で苗を育て、それを販売することで、村の一大産業にできないかと考えている。苗をつめる作業は女性や子どもにも負担にならずに行える。タンジュンハラパン村では貧しさから違法伐採に手を染めるものも出ていた。村に産業と呼べるものがあり定期的に収入を得られれば森を破壊することなく、生活を満たすこともできる。

始まってまだ3週間ばかりの新しいプロジェクトだ。 足りないものはたくさんある。たくさんの苗をいれるためのポリバック。ポリバック1kg(約330個分)でおよそ200円。奥に行くにつれグラデーションのように緑が見えた。苗の上に広げているパラネット。日光を遮るためのセーフティネットだ。水をくみ上げるポンプは重要な機械。バスキは古い機械を借りて使っていた。

ウータンは今回、現地NGOを支援する資金を用意した。それにより新しいポンプを買うことができた。一番小さいサイズを日本円で約12000円ほどで購入。

このプロジェクトが成功し、村が森を破壊することなく豊かになる希望の種は育つだろうか。

世界の森林ニュース

2008年10月－09年2月　by 西岡

【金融HSBC、環境配慮で木材業の融資削減】
08年12月、世界有力2000社内のランキング1位英国の世界一金融グループHSBCホールデイングは環境配慮の方針でマレーシア、インドネシア木材資本等への融資を縮小と。HSBCは違法性、持続可能に問題の木材、パームの林産企業1/3取引を打切ると。(資料:ロイター)

【UNEP、Co2蓄積・生物多様性等の地図作成】
08年12月、国連環境計画(UNEP)は、世界のCo2蓄積量や生物多様性の高い所の保全必要との地図作成。地図でボルネオ、スマトラ北部、アマゾン、パプア、カナダ北部、フィンランド、ロシア北部・極東北部保全と。(New Scientist誌)

【ペルー政府、10年以内に大半の森林保全と】
12月5日、温暖化防止締約国14回会議COP14でペルー政府は、10年以内に森林減少を防止と。これを実施すれば今ある原生林の8割保全できるか。REDDの資金絡み?(BBC News)

【ブラジル、最大の違法伐採は政府関連組織】
08年9月末、ブラジル環境省はアマゾンで大規模な違法伐採100組織のランキングを公表。政府系INCRAが一番違法伐採多いと判明。ミンク環境相は「ランク100位まで全組織に厳しい措置を行う」と表明。特に北部ロンドにア、パラ、マットグロッソ州がひどい。有力紙グロボは先住民保護区で違法伐採告発文を掲載。08年8月まで違法伐採は2割減るが、アマゾンの森は違法伐採、開発で20%消滅。今措置、逮捕等に木材企業組合は反発。(資料:9/29ロイター等)

【ITTO(国際熱帯木材機関),08-11年行動決定】
08年11月44回国際熱帯木材機関理事会は、08－11年行動計画等を決議。①気候変動で脅威に適応・対策に関するITTOルール、②加盟国の森林法遵守・違法伐採等調査,合法材取引を含む08-11年のITTO行動計画、③生物多様性維持へ持続的な利用と保全策等。(参加で)

【ロシア丸太輸入半減、熱帯産丸太70万㎥に】
08年のロシア材輸入は関税25%引上げで丸太は前年比54%減の180万㎥強、製材品は30%減の67万㎥。また熱帯材丸太の輸入は前年比30%減の70万㎥、欧州産製材品は24.3%減で201万㎥となる。合板の供給は国産が増加で260万㎥(比率42%)で、輸入合板がロシア、熱帯産、NZ産等を併せ356万㎥(58%)と激減。米国の住宅産業・産業界ショックで急減。今セイホクグループ等は国産材合板を50-100%への計画。(資料:木材新聞09年1/31,2/5,2/6,2/11)

【林業経営者協会も森林Co2吸収認定制度を】
2月15日付、日本林業経営者協会は森林の二酸化炭素(Co2)吸収量と生物多様性レベルの認証制度(フォレストック認定)を開始。また全国の13県でも同Co2吸収認定制度を実施し、拡大模様。　(資料:日刊木材新聞2/13他)

【九州7県、H21年公共財100%合法材使用】
沖縄を除く九州全7県と九州森林管理局で構成する「九州の森林づくり推進会議」は、H21年度から各県の公共事業にグリーン購入法推進の方針に基づき合法材100%使用を盛り込む方針を決定。　(資料:日刊木材新聞2/27)

【コンゴ、伐採契約の約6割認可取消しへ】
ロイターによると、コンゴ政府は森林破壊を防ぐため、現在伐採許可を与えている6割近くの契約を取消す方針と。消費国EUの合法材使用のため方針転換。ガーナも同じ。(1/19付)

【インドネシア、泥炭地のパーム農園再許可】
インドネシア政府は、1年余りで泥炭湿地でのアブラヤシ開発禁止策を解除。同農業省は08年調査結果で解除と理由付けした。それにより同国の2500万haの泥炭湿地のうち新規は200万haを上限に許可すると。泥炭湿地等の破壊・火災・開発が同国温暖化促進の84%を占め、多くのNGOsは反発。(ガーディアン誌2/16他)

≪会費、カンパを頂いた方々≫（2009年1月1日～2009年3月20日）

（敬称略）

池田光司　伊東万千子　上田真弓　鵜川まき　木村久吉　田中亜子　千代延明嶽　藤原猛爾
藤岡正雄　二木洋子　山田光一　湯川れい子　吉田千里　（ありがとうございました）

≪おたよりから≫　（敬称略）

☆21年目のスタート、熱帯林の森と生活を考える活動が、また一つ一つ実を結び、つながっていくことを、期待しています。　1／26（池田光司）

☆粘りづよい活動を心から応援します。　1／26（鵜川まき）

☆（昨年7月の石川県浅野川豪雨水害について）浅野川河川敷に草木を植えて緑化していましたが、皆流されました。家と体はまだ残って(？)いますので改めて種と苗で環境を守りたく…　3／11（木村久吉）

☆西岡さんの現地紀行、臨場感いっぱいでドキドキしながら読みました。機関紙楽しみにしています。　1／16（田中亜子）

☆単に継続されているのみならず、着実に成果をあげられていることに敬意を表します。　2／6（千代延明嶽）

☆もう20年になるのですね。環境問題にかかわるきっかけとなった息子も32才。色々なことを考えながら通信を読みました。　2／19（湯川れい子）

《会計より》

☆いつも変わらず応援いただきまして、ありがとうございます。前号裏表紙で、年度会費3,000円となっておりましたが、4,000円の間違いです。たびたび申し訳ありません。

2008年度決算

収入		支出	
繰越金	1,043,586	会報製作費	196,350
会費	238,000	送料	86,630
カンパ	574,880	事務所家賃	144,000
物品販売	1,600	他団体への協賛金他	20,500
地球環境基金(2007年12月～2008年3月)	893,000	会場費	3,840
地球環境基金(2008年4月～2008年11月)	1,130,000	資料費	2,000
講師謝礼	39,000	交通費	4,160
20周年行事参加費	64,000	事務費	3,030
その他	2,310	海外調査補助	200,000
		20周年行事経費	59,025
		地球環境基金(2007年度分残金)	893,000
		地球環境基金(2008年11月まで)	1,130,000
		その他	420
		次年度へ繰越金	1,243,421
計	3,986,376	計	3,986,376

森の救援基金2008年度決算

収入		支出	
前年度繰越金	950,132	カリマンタン植林支援	3,000
		次年度へ繰越金	947,132
計	950,132	計	950,132

ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36
サクラビル新館308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561
（HPwww.hutang.org/（mail）fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp

【一部】300円【年会費】4000円
【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。
◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。

PRINTED ON RECYCLED PAPER